

いきいき弥小っ子

No.23 (2月19日号)

教育活動のまとめと振り返り～学校評価の結果から～

弥彦小学校 校長 石黒和仁

3学期もあと約1ヶ月、登校日はあと20数日となりました。カウントダウンの取組をしている学級もあります。来週からは、6年生を送る週間が始まります。6年生は卒業に向けて、5年生は最高学年に向けて、1～4年生は進級に向けて喜びと期待、責任等を感じているようです。

さて、2学期末に行いました2回目となる学校評価に関わる児童アンケート、保護者アンケートの結果をお知らせします。

*肯定割合とは、4段階の4と3の肯定的な評価の割合です。数値は%です。

	<児童>	肯定割合		比較
		11月	7月	
1	呼ばれたら「はい」と返事をしている。	92.4	90.7	↑
2	学校が楽しい。	86.7	85.3	↑
3	友だちとかかわって学んでいる。	92.8	92.2	↑
4	学校の授業で「かかわりのスキル」を意識して学習している。	85.5	81.2	↑
5	友だちの考えと自分の考えを比べたり友だちの考えの良さを取り入れたりしている。	84.5	84.6	
6	学校の授業でできるようになったこと分かったことを振り返っている。	85.7	86.6	
7	進んで学年で決められた時間の家庭学習に取り組んでいる。	84.9	84.8	↑
8	弥彦タイムで、弥彦村の人や自然・施設・文化等と関わった活動をしている。	92.3	92.2	↑
9	自分のよいところ(がんばっているところ・前より良くなったところなど)が分かる。	84.2	81.4	↑
10	友だち(相手)のがんばっているところや良いところを見つけ、伝えている。	79.1	81.7	
11	ゲームやテレビなど電子メディアの時間を決めて守っている。	75.4	75.6	
12	自分から進んであいさつしている。	84.7	82.9	↑
13	大人に「おはよう」「こんにちは」と言われたら、あいさつを返している。	95.1	97.3	
14	「いじめをしない」「いじめを見つけたらやめさせたり先生に言ったりする」ようにしている。	86.9	88.3	
15	友だちに、いやなことを言ったり、したりしたことがある。	74.6	78.0	↑
16	友だちから、いやなことを言われたりされたりしたことがある。	74.2	67.0	
17	友だちがいやなことをしたり、友だちがいやなことをされたりしているのを見たことがある。	72.7	73.6	↑
18	自分の係や当番の仕事やあいさつボランティアの仕事は、みんなの役に立つと思う。	93.3	90.7	↑
19	大きくなったらやってみたいことやなりたい仕事がある。	87.3	82.6	↑

※設問15・16・17は、マイナス評価の割合を示しています。15・17はマイナス評価の割合が下がっているため、比較としては↑となります。

	<保護者>	肯定割合		比較
		11月	7月	
1	お子さんは、学校が楽しいと感じている。	92.1	90.2	↑
2	学校は「みんなで創る・みんなの学校」を意識した教育活動を行っている。	95.7	93.6	↑
3	学校は、課題を解決する力・かかわる・振り返る・粘り強さを児童に身に付けさせている。	92.4	86.8	↑
4	学校からの各種便り等を通じて、教育活動や子どもの様子が分かりやすく伝わっている。	97.5	89.7	↑
5	連絡帳や電話連絡、メール配信、保護者面談などを通じて、新型コロナウイルス禍においても教職員と保護者の連携がとれている。	92.4	78.9	↑
6	お子さんは、授業の内容が分かると感じている。	90.3	85.8	↑
7	お子さんは、決められた時間、家庭学習に取り組んでいる。	74.4	77.5	
8	学校の特色を生かした教育活動を行っている。	96.0	88.2	↑
9	お子さんは、自分の頑張っているところや成長等が分かっている。	82.7	80.4	↑
10	お子さんは、他の人と上手に関わることができている。	80.5	82.4	
11	お子さんは、ゲームやテレビなど電子メディアの時間を決めて守っている。	57.1	54.4	↑
12	お子さんはあいさつができている。	69.9	70.1	
13	お子さんには、いじめをしない、いじめを見逃さない等人権を尊重する心が育っている。	95.3	93.6	↑

2回目となる今回のアンケートでは、児童は12項目、保護者では10項目の数値の上昇が見られました。ありがたいことです。結果を踏まえて、教育活動のまとめと振り返りを確実にを行い、次年度につなげたいと思います。

新型コロナウイルス感染症対応を含めた学校の取組全般については、1学期末にも高評価をいただいておりますが、2学期末においても非常に高い評価をいただきました。特に、感染症対策をした上での工夫した分散授業参観や学習発表会が良かったとのコメントをいただきました。ありがとうございます。

保護者アンケートで下降した項目は、「友達との関わり方」「家庭学習」「あいさつ」の3つです。児童アンケートでは、この3つに加えて「電子メディアの時間」となります。この4つは今後も継続して取り組んでいかねばならない課題であると学校でも認識しています。

「友達との関わり方」については、7割を超える子どもが、不適切な言動をしたり、されたり、見たりしていることとなります。だからといって、関わりやトラブルを回避することを優先すれば、大事な成長の機会を奪うこととなります。以前から申し上げておりますが、学校としては、関わり合って学ぶことを大事にしていきます。また、トラブルが起きた時にどうするのか、どう解決していくのか。その力を身に付けさせたいと思います。そのため、感染症対策をした上で、対面活動やグループ活動、話し合い活動等を積極的に取り入れていきます。

「電子メディアの時間」については、アウトメディアチャレンジ週間を実施しているときとそうでないときの差が大きい、つまりメディアコントロールが日常化されていないことが課題です。夜遅くまで動画を見ていて体調不良になったケース、オンラインゲームでトラブルになったケースなども散見されます。学校でも継続的に指導していきます。家庭におかれましては、「子どものために心を鬼にしてルール作りと徹底」をお願いします。

Web 配信アンケートシステムを活用した保護者アンケートも2回目となりました。回答率が約5割から約7割へと向上しました。文部科学省の推進する「GIGAスクール構想」を受け、本校でもICTを活用した各種取組を模索していきます。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。
(文責：自分勝手に縄跳び週間を設定し、子どもと楽しんだ縄王石黒)